

〔ガーデンライフ・入選〕

兵庫県・ふじたさん



亡くなったご主人が奥様のためにつくった庭。思い出を慈しみ、いまでも庭をきれいに維持されていることが審査員の心に響きました。

〔花の庭・入選〕

愛知県・小川英二さん



玄関脇などの決して広くはないスペースを、バラを中心とした立体的な植栽で上手に演出しているテクニックが評価されました。

〔ワンショット・入選〕

埼玉県・gaussさん



夜間の写真は応募作の中で唯一。「ナイトガーデンの提案として面白い。樹木を照らすようにするととっても良いですね」と中山先生。

〔経年美化・入選〕

大阪府・シマトネリコさん



イロハモミジの四季の変化を収めた作品。経年美化部門のテーマのひとつ「四季の移り変わりがわかる」にぴったりと評価されました。

〔5本の樹・入選〕

福岡県・山田 誠さん



実がなるソヨゴ目当てに野鳥がやってくる雑木の庭。「窓を使って庭の緑を切り取った額縁仕立ての見せ方が秀逸！」と中山先生。

〔ワンショット・入選〕

神奈川県・ふくおかさん



庭の花や芝生と、そこでくつろぐお子さんという、微笑ましい暮らしの一場面が1枚に凝縮されていることが高評価でした。

〔ワンショット・入選〕

埼玉県・いるかさん



家を背景に、シンボルツリーのハナミズキの真っ白な「花」と「新緑」と「青空」を収めたベストショットに注目が集まりました。

〔5本の樹*・部門賞〕

奈良県・ゆきママさん



「アオダモを中心に鳥を呼び込む樹木の風にとよぐ様子が連想され、雑木林にいるような心地よさが感じられる庭ですね」と中山先生。建物と樹木の絶妙なバランスと、ナチュラルでモダンな印象も高評価でした。

〔花の庭・部門賞〕

福岡県・杉本真介さん



玄関アプローチにコンテナを置いて高さをつけ、華やかなイメージを演出しているテクニックが高く評価されました。花を通じて生まれる近所の方とのコミュニケーションを楽しんでいらっしゃる点も、票が集まった理由です。

〔経年美化・部門賞〕

岡山県・安藤信子さん



5年間かけて土を運び入れ、石を配置し、1本1本の樹を植え、自然風の庭をつくりあげてこられた安藤さんご夫婦。その歴史と熱意が、庭の変化や美化をテーマにした経年美化部門にふさわしいと部門賞に選ばれました。

〔ガーデンライフ・部門賞〕

東京都・A・Jさん



リビングから庭へと続くデッキにソファを置き、開放的なアウトリビングで光や風、庭の緑など自然との一体感を楽しんでいらっしゃる様子は、審査員たちにとっても憧れの的。花壇のレベルの高さも評価されました。

第11回「きずなガーデンコンテスト」を終えて。



審査員 ガーデンデザイン研究家 中山正範先生

芦屋学園短大で教鞭をとり、ガーデンデザイン研究家として、色のバランスを考えたスペースデザインを研究・指導している。主な著書に『中山正範の庭と室内のガーデニングレッスン』『花色レッスン&コーディネートBOOK』など。

総評

園芸栽培の技術の高さがうかがえる作品が多かったですね。加えて庭のテーマが見える作品や、建物とのバランスを意識した作品が高い評価を得ました。初の経年美化部門では、年月を経た庭の魅力・迫力を感じました。

来年3月に発行される「きずな141号」にて、第12回きずなガーデンコンテストの募集を行います。ご応募される方は、いまからお庭の写真を撮りためてみてはいかがでしょうか。